

三重県立津商業高等学校 1年 杉野 心胡

「三重県を「目的地」から「憧れ」へ ―10 代の感性で仕掛ける、再定義(リブランディング)戦略―」

私には、夢中になっているものがあります。それは「音楽」です。イヤホンから流れるお気に入りの曲は、一瞬で自分の気分を変え、世界をキラキラと輝かせてくれます。私は将来、そんな音楽のように「人の心を動かす仕掛け」を作る、マーケティングや企画のプロフェッショナルになりたいと考えています。

この「企画職」という私の夢を、大好きな地元・三重県で形にしたらどうなるか。それが、私が描く三重県の未来図です。

今の三重県には、伊勢神宮や美味しい食べ物など、素晴らしい魅力がたくさんあります。でも、私たち高校生の視点から見ると、それはまだ「一度行けば満足する場所」というイメージが強い気がします。私が作りたいのは全国の若者が「新幹線を乗り継いででも、今すぐあそこに行きたい！」と胸を躍らせるような、圧倒的な「憧れ」を感じる三重県です。

もし私がプロデューサーなら、三重県全体を一つの大きな「ライブステージ」のように演出します。歴史ある古い街並みに、最新のデジタル技術や音楽をミックスさせて、そこでしか味わえない特別な体験をデザインするのです。ただ景色を眺めるだけでなく、自分たちが主役になって楽しめる仕掛けがあれば、若者は自然と集まり、その感動を SNS で世界中に広めてくれるはずです。

マーケティングとは、その場所の本当の価値を見つけ出し、新しいアイデアでみんなに届ける仕事です。三重県が持つ「伝統」という素晴らしいペースに、私たち若い世代の「感性」というスパイスを加えれば、これまでにない新しい化学反応が起こると信じています。私が主役となって創り出す未来。それは、日本中の若者が「三重が一番熱いよね！」と語り合う、活気あふれる姿です。自分の夢である「企画する力」を磨き、三重県を世界で一番ワクワクする場所にプロデュースしていきたいです。